

北海道別海高等学校 酪農経営科

酪農王国の農業高校の生徒たちが
地域のために、未来のために、奮闘中!



北海道別海高等学校 別海町別海緑町70-1 TEL.0153-75-2053(事務室) <http://www.bekkai.hokkaido-c.ed.jp>



みんなの夢・目標
ってなんですか?

乳製品加工の楽しさを学んだので、
その方面に進学したい
2年生 中町 周輔さん(厚岸町出身)

実家が酪農をやっていることもあり、
後を継ぎたい
2年生 佐藤 麻由香さん
(別海町出身)

まだはっきりした目標はありません。
これから見つけていきたい
1年生 丸山 未来さん(別海町出身)

農業には関係ないですが、
車関係の仕事につきたい
1年生 大久保 輝さん
(別海町出身)



生徒が講師となり、中学生に農業について教える
出前授業。写真は「チーズができるまで」をテーマ
に、実際にチーズ製造と一緒にいった様子。



町の一大イベント「別海町産業祭」で、地域住民との
会話を楽しみながら、育てた野菜を直売。毎年大人
気のブースとなっており、あっという間に売り切れ。



近隣農家から生後8~9か月の牛を借り入れ、約
2ヵ月飼育する管理実習。エサ寄せや掃除まです
べて生徒たちが行う。

牛がない酪農科
教材は「町全体」

人口14000人程の小さな町ながら、生乳生産量日本一(農林水産省「令和3年市町村別農業産出額」より)を誇る別海町。乳牛の飼育頭数は約11万頭と人口の約7倍にもなる。そんな「酪農王国」と言える町で、農業全般について勉強に励んでいるのが、別海高等学校の酪農経営科の24人の生徒たち。

学科名に「酪農」とあるが、学校には牛舎がなければ、牛もいない。毎年8~10月の2ヵ月間、近隣農家から牛を借りて校内の一角で育てたり、春と秋それぞれ1日(酪農研修牧場で実習を行ったり、搾乳実習を2泊3日で行った)に酪農実習を2泊3日で行ったり、搾乳実習を2泊3日で行ったなど、町全体を教材としているのが特徴である。それ以外の期間は20品目以上の野菜や花

を育て、農業全般を学んでいる。
農業を通じて広がる
地域の輪!

中でも特徴的なのが、3つに分かれるプロジェクト研究班。1年生時に基礎を培い、2~3年生時にそれぞれ関心の高いテーマに取り組みするというもの。現在は、牛の飼料を自分たちで作る「乳牛研究班」、新商品の開発を目指す「乳製品加工班」、糞尿などの有効活用方法を考える「地域資源活用班」の3つの研究が進められている。2022年には「NOMaps 釧路・根室2022高校生ビジネスコンペティション」で、飼料自給率の向上への取り組みを発表した乳牛研究班が「みらい賞」を受賞した。他にも、小・中学生を対象に実施する出前授業や、自分たちで作った野菜や乳製品の販売会、

温室で育てているシクラメンの即売会、ジャガイモ掘りなどを通じた地元園児との交流、牛の優劣を決める大会「共進会」に近隣酪農家が育てた牛を引く手伝いなど、地域とのつながりを大切にした活動がたくさん。少し前までは農業の後継者を育てることを柱としていたそうだが、現在は地域産業の発展に重きを置いた活動を続けているという。そこには、コミュニケーション力や挨拶などの社会に出てから必要な力を、農業を通じて学んでほしい、という想いが込められている。

「地域の方々と関わる機会が多いため、いろいろな考えを聞き、視野が広がったように思います。地域の輪を感じられるのもこの学校ならではの」と、2年生の中町周輔さんは話す。農業の未来を担う生徒たちの活躍をぜひ応援してほしい。